

三井のリフォーム住生活研究所 所長 西田 恭子

## 金沢での一日

先日、不動産関係の協会から依頼を受けて、金沢での講演会に行ってきた。

金沢には小松空港から入るのだから、日本列島を太平洋側から日本海側に抜ける航路は、飛行機がジャンボでないこともあり低い高度

での山越えで、晴れているときの景色は素晴らしい。特に今回は、台風一過の澄みきった空の中の飛行。

眼下に見えるアルプスの山々は神々しく、地元の方々が「神の山」と呼んでいる

の気持ちがよくわかった。今回は不動産仲介業者の方々とリフォーム業界の連

携が注目を浴びる中での講演会で、会場には一〇〇名を超える関係者が集まっていた。「中古を買ってリフ

ォーム」は、私の大事なテーマでもあり、熱気の中、大学の授業と同じ一時間半

は、あっという間に過ぎ、ついつい時間をオーバーしうになっちゃった。講演

後、書き取れなかった部分を聞きに来る方や、次はいつという声をいただきながら名刺交換をし、金沢まで

来てよかったと安堵した。そんな達成感があった後の金沢の夜は、楽しい。一



人で夕暮れの長町武家屋敷の面影が残る界隈を散策し、細い路地が続く土塀が城下町金沢を感じさせる。旧家の改築状況や街並みを壊さず進化させて建てた住宅を確認して回った。

金沢に来るといつも思うのは、屋根瓦の美しさだ。黒光りした重厚な瓦がこの

地域の特徴だ。それと同時に、近年では金沢にもマンションが増えたなという感想を持った。

そして日は暮れ、さて夕食の場所を決めなければと繁華街香林坊から路地に入

った。女性一人が初めての地で食事の場所を決めるのはなかなか難しい。ちょっと自分への慰労の気持ちがあるの、ビール一杯は

飲みたいし、郷土ならではの食材も味わいたい。

そんなことを思いながら、小上がりとかウンターがある小さな小料理屋のれんをくぐった。看板には「金沢味の真骨頂 味処 加賀の菊酒」と書いてあった。

着物姿の女将さんが笑顔で迎えてくれ、カウンター越しに少し無口な大将にご当地の魚料理を頼んだ。男女合わせても一人客は私だけだったが、料理も特別に少量にしていたいたおかげで、数多くご当地ものをいただくことができた。

年を重ねるごとに、だんだんと上手に一日の労を癒すコツを身につけてきたなと思っ



長町武家屋敷の町並み  
(写真：西田所長撮影)

西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手がけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。